

# みたか環境ひろば 第65号

平成 30年 10 月 1 日号



## 私の住む三鷹



★三鷹市内を流れる野川★

三鷹市には国立天文台があります。きっと空の観測に適したところだったに違いありません。井の頭公園には井の頭池があります。丸池から流れる川は仙川となり東京湾に注いでいます。三鷹市にはそのほかに、野川、神田川と三本の一級河川が流れています。一級河川というと、多摩川や利根川のような大きな川と思われがちですが、国が管理している川が一級河川なのです。三鷹市は星がよく見え、街にはきれいな川が流れる街です。

緑を大切に、街からごみをなくすため、毎年「ごみ拾い競争（スポGOMI大会）」などで楽しみながら、ごみを捨てないよう訴える催しを行っています。自分の住む街をきれいにするということは、誰かひとりが行えばよいものではありません。地域全体で決まりを守りごみの出し方に気をつけることが大切です。三鷹市の幼い子どもたちが成長したときには、自然と街はきれいになると思います。

よい環境の中で生活したいという思いは誰もが持つものです。そのよい環境を作るのは、私たち一人ひとりなのです。他市からきた私の友人は、三鷹市は緑が多いと言います。樹木は見た目ですぐ私たちに癒してくれるだけでなく、酸素を放出するので、呼吸を助けてくれます。落葉を嫌う人もいますが、何にでもメリット、デメリットはあるものです。樹木が私たちにもたらしてくれるものを考えると、多少のデメリットは理解したいです。  
(森)



## 木を大切にした日本文化の証 投稿者:大沢の里水車経営農家市民解説員

今回、市民の方から「大沢水車」について記事が寄せられましたのでご紹介します。

※本誌への記事の寄稿については「みたか環境ひろば第58号」をご覧ください。



大沢野川沿いに「しんぐるま」があります。水車は、水を取り込み、その重みで回転させる輪です。回転によりものを動かす力を生み出します。水車は、水が豊富で、かつ流れを伴った場所に設置されます。

「しんぐるま」は、大沢の里水車経営農家にあり、1808年江戸時代後半に設置され、当時の姿を残し、稼働しています。

水車の本体、歯車、杵、軸心等の材料は、木で作られています。長年の使用から、各所に痛み、つぎはぎ補修され使われています。木という素材を大切にした日本文化の証を見ることが出来ます。

今秋、10月6日（土）～8日（月・祝）に特別公開を行います。実際に精米・製粉作業を間近でご覧いただける機会ですので、ぜひお越しください。※ご予約の方が優先となります。

★三鷹の水車「しんぐるま」★

## 私の北海道旅行



★車窓から眺める釧路湿原★

この夏、北海道旅行に誘われ、喜んで参加してきました。このチャンスに世界遺産となった釧路湿原や知床半島など、さらに富良野のお花畑等を見たいと思い、計画の立案者に聞いてみたところ、今回私が重点的にいきたいと思っていたところを見学する計画を立てているとのことでした。

最初は、釧路湿原を見るため、釧路駅より湿原の塘路駅までトロッコ電車に乗りました。湿原は、自然状態の保存が良く、湿原内の見学木道遊歩道で楽しく観察できるようになっていました。また、湿原内を流れる釧路川では、カヌー遊びができるようにもなっていました。さらに、電車が走るときは、乗客に喜んでもらえるようにゆっくりと走り、車内放送では、湿原についての説明があったので、小中学生には勉強になったと思います。

次いで翌日は知床半島を見学しました。船で向かった半島は、曇り日でよく見えませんでした。双眼鏡でイヌワシを見ることができました。知床半島には知床五湖があり、地上遊歩道の大ループと小ループと高架木道のコースがあります。こちらも世界遺産であることから、管理状態も大変よいものでした。午後からは晴れたので、遠くの方まで見ることができ、素晴らしい風景を味わいました。3日目には、富良野のお花畑を見学し、その美しい景色に唾然するほどでした。本州のお花畑とはスケールが違い、広大な土地に、はるか彼方まで花が咲いているので驚きました。

最後に、この旅行で特に驚いたことは、どの名所においても日本人旅行者よりも、外国人旅行者が多いことでした。外貨稼ぎには良いと思いますが、このような素晴らしい自然を持つ北海道に日本人旅行者が少ないと感じ、なんとなく寂しい思いで私の3泊4日旅行の旅も終わりました。（鈴木）



★富良野のお花畑★

## エコについて

私はこれまで社会福祉協議会のボランティア活動に参加しており、赤ちゃんから高齢者まで、様々な年齢層の方と接してきました。その活動をとおして、私の残された人生の活動に勇気をいただき、これからの社会参加ボランティアに対する意識も大きく変わりました。

現在は、みたか環境活動推進会議の活動に関わっています。今年度は6月にエコミュージカルとエコイベントを開催しました。エコミュージカルには、オーディションで選ばれた市内の小学生が出演しました。子どもたちが歌っていたリサイクルの歌などから、環境について楽しく考えるミュージカルとなりました。終戦直後に小学校に入学した私は、当時の生活環境から、「もったいない」や「お粗末」という言葉をよく耳にしていたので、今回の子どもたちによる環境に対するメッセージが、とても心に響きました。

今後は、これまで関わってきたボランティアや、みたか環境活動推進会議の活動をとおして、人と人との輪を広げ、地域のつながりを形にできればと思います。そして、参加する人が増えて、様々な世代にとって楽しい集いになることを願っています。（野口）



### 【編集後記】

先月、猛暑の東京を逃れ、湿原及び原生花園を散策しようと、10年ぶりに北海道を訪れました。蝦夷から北海道と名称変更150年記念に伴い、天皇陛下も訪れていたとのことでした。10年前に比べ遊歩道が整備されており、散策しやすく、所々にベンチ等があり、足の悪い私でも十分楽しむことができました。ビジターセンターに立ち寄り、説明を聞くと、環境保全に苦労されていることが垣間見えます。中でも気になったのは外来動植物の広がりです。侵入、増殖を食い止めることは非常に難しく、せめて私たち人の手で自然界を乱す行いはするべきではないと強く感じました（平澤）

次回の発行は平成30年1月の予定です。

発行：みたか環境活動推進会議  
(愛称 みんなの環境)

連絡先：三鷹市生活環境部環境政策課  
電話 0422-45-1151 内線2523・2524

E-mail:kankyo@city.mitaka.tokyo.jp

本誌は、市役所、市政窓口、図書館、コミセンや市のHPから入手できます。